

## 調査回答項目

### 「龍柱」について

1. 50mから 25mに変更した杭が業者からの聞き取りで摩擦杭だとわかったが、それが明確にわかる資料 資料 1

2. 阿形の石材を鋼管に差し込む穴の大きさが違う理由がわかる資料 資料 2  
(回答)

リブ取付箇所における穴の大きさの設計値 (650mm) に対する施工誤差の範囲であり、施工上問題はありません。

3. 阿形の 5 段目の穴は削りすぎだが鋼管にうまくつるせるのかがわかる資料 資料 3

(回答)

削りすぎではなく、施工上問題はありません。(資料 2 : B5 (上) 参照)

4. 吽形の石材積立て設計がわかる資料 資料 4

5. 建設場所 (龍柱) を変更したが変更場所の地質調査をしたことがわかる資料 資料 5

6. 2 本の龍柱の基礎杭が同じ長さになった理由がわかる資料 資料 6

7. 補正予算を活用した残工事の積算根拠がわかる積算資料 資料 7  
(回答)

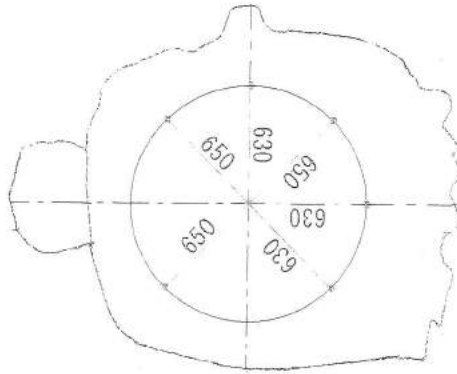
現在、残工事の積算については、発注の手続き中であるため平成 27 年 4 月臨時会時の資料となります。

## 基礎工設計調書（杭基礎：鋼管杭）（その1）設計条件

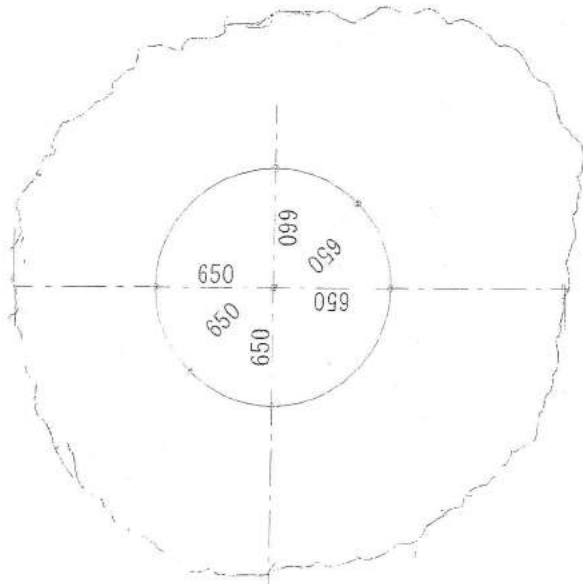
下部工名称（下部工No.）		変更（工作物）杭
杭基礎条件	杭種 (1.場所打ち杭, 2.鋼管杭, 3.PHC杭, 4.RC杭, 5.鋼管ソイル杭, 6.その他)	鋼管杭
	工 場所打ち杭 (1.オールケーシング工法, 2.リバース工法, 3.アースドリル工法)	
	法 既製杭 (1.打込み杭工法, 2.中掘り杭工法, 3.プレボーリング工法, 4.鋼管ソイルセメント杭工)	中掘り杭工法
	中掘り杭先端処理方法 (1.最終打撃, 2.セメントミルク噴出攪拌, 3.コンクリート打設)	セメントミルク噴出攪拌
	支持地盤の種類 (1.砂れき地盤, 2.砂地盤, 3.粘性土地盤, 4.岩盤, 5.その他)	砂れき地盤
	鋼材   鋼管杭 (1.SKK400, 2.SKK490)	Skk400
	杭 径 ( )内は鋼管ソイル杭を使用時に鋼管径を入力 D ( D ) (mm)	800
	杭 長 L (m)	24.4
	杭本数 N (本)	8
	杭の種類 (1.支持杭, 2.摩擦杭)	支持杭と同等の摩擦杭
	杭先端の極限支持力度 qd (kN/m <sup>2</sup> )	0 極限支持力(3576.07KN)
杭頭結合方法 (1.方法A, 2.方法B)	方法 B	
地盤条件	液状化層 (FL≤1) の有無 (1.無し, 2.有り)	有り
	震度法による設計に用いた土質定数の低減係数DEの最低値(1. 1/6, 2. 1/3, 3. 2/3, 4. 1.0, 5. 0.0) DE <sub>min</sub>	1/3
	地震時保有水平耐力法による設計に用いた土質定数の低減係DEの最低値 (1. 1/6, 2. 1/3, 3. 2/3, 4. 1.0, 5. 0.0) DE <sub>min</sub>	1/3
	地震時保有水平耐力法による設計において土質定数を低減した層厚の合計 (フーチング下面から) (m)	1.777
	土質定数を零とみなすごく軟弱な粘性土層あるいはシルト層の有無 (1.無し, 2.有り)	無し
	土質定数を零とみなした粘性土層あるいはシルト層の層厚 (フーチング下面から) (m)	無し
	流動化の影響 (1.無し, 2.有り)	無し
	流動化の方向 (1.橋軸方向, 2.直角方向, 3.両方向)	
	水際線からの距離 s (1. s ≤ 50m, 2. 50m ≤ s ≤ 100m, 3. s > 100m)	100m ≤ s

# くり貫き出来形図-1 (阿形)

B4(上)

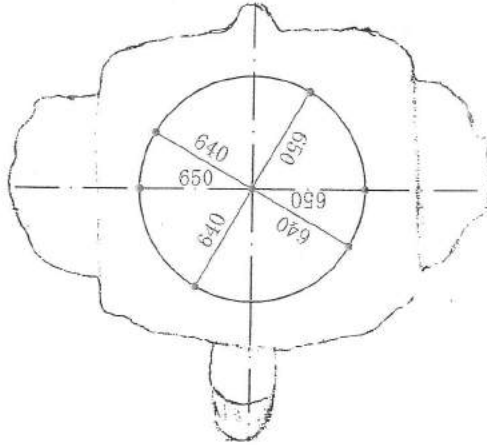


B3(上)

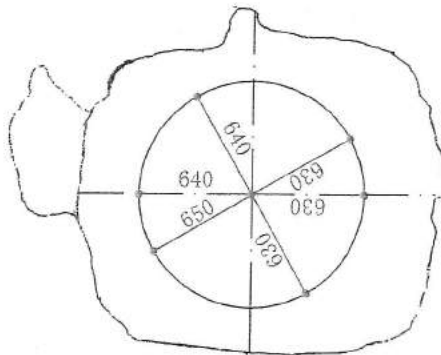


くり貫き出来形図-2  
(阿形)

B6(上)

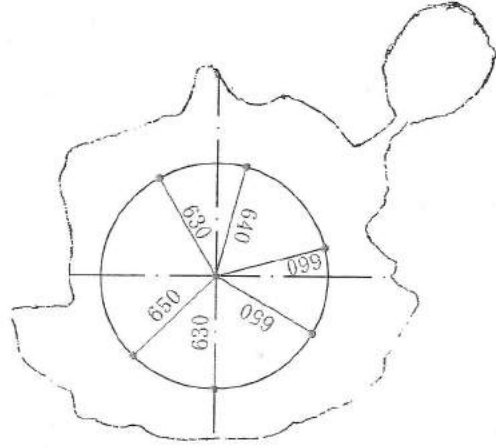


B5(上)

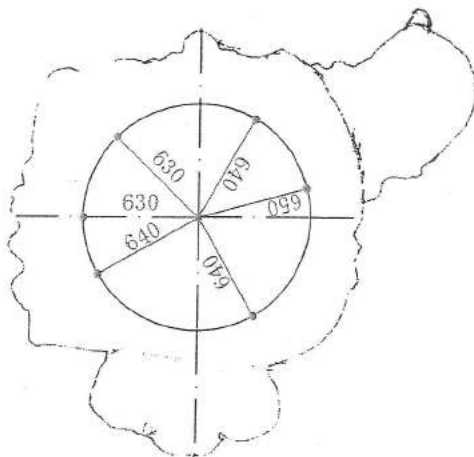


くり貫き出来形図-3  
(阿形)

B8(上)

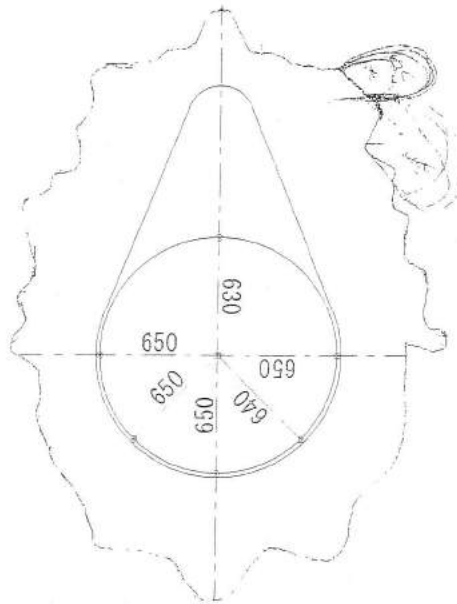


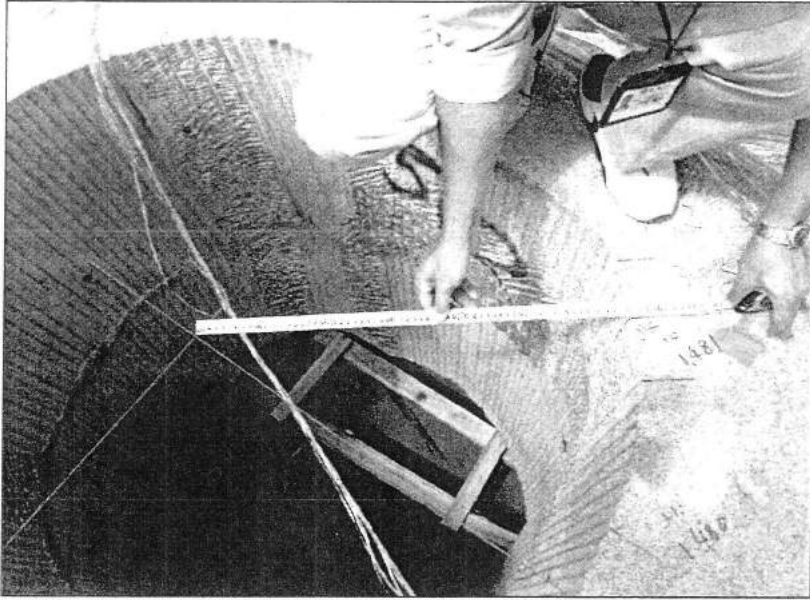
B7(上)



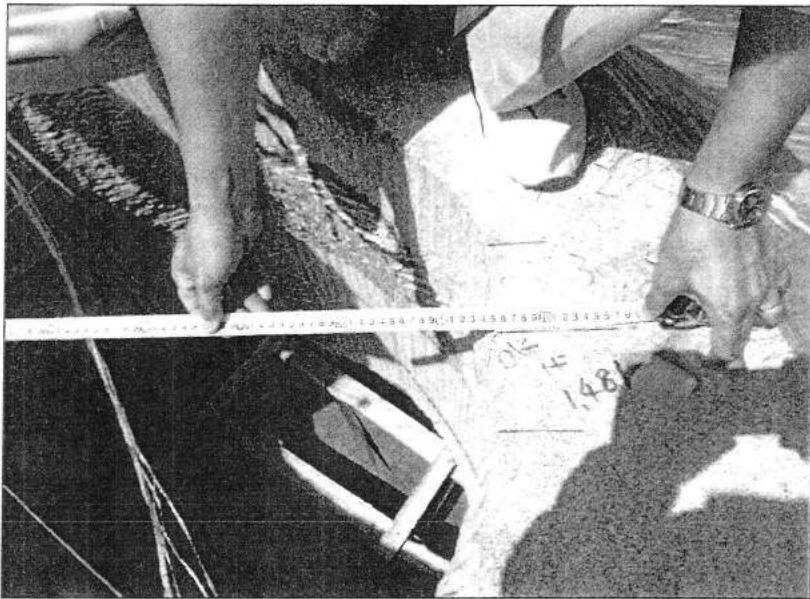
くり貫き出来形図-4  
(阿形)

B9(上)

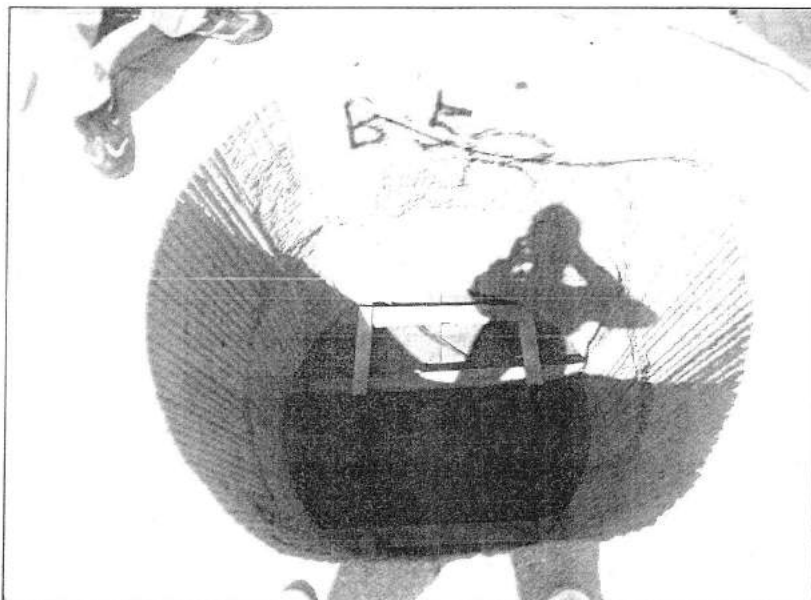




写真区分: B-5



写真区分: B-5



写真区分: B-5